

電気工事と計装工事のスペシャリストとして 高い技術とチームワークで現場を納める

埼玉県、東京都をメインとして、ビル、商業施設、店舗、オフィスなどの電気工事と、空調制御の配線、機器盤の取付、結線を行う計装工事を手掛けている『Zeal E.C.』。従業員が一丸となり、確かで安全な工事に尽力している。本日は、そんな同社を牽引する倉永社長のもとを、タレントの松尾伴内氏が訪問し、事業や従業員への思いを中心に、お話を伺った。

仲間を増やして、電気工事部門と計装工事部門を作りたいです。その中で、人材育成に努めて、現場全体を見ることができ、番頭さんを増やしたいですね。また、さらに広い倉庫と事務所に移りたいです。そして、より多くの現場を手掛けられる体制を整えていきたいと考えています。

「計装」というのは、一言で言うと計測器を装備することです。計測器とは、自動車というスピードメーターや燃料計のことで、運転手はそれらを確認しながら安全運転に努めるわけです。これは空調設備においても同様で、特に大きな設備を設置しなければならぬ商業施設などの大型施設において、機械が安全に動いているかどうかをチェックするために、温度計や圧力計などの計測器を設置します。簡単に言うと、空調設備の制御装置ですね。計装工事は、制御装置を設置して、空調設備が安全にしっかりと動くようにするための工事なのです。尚、当社ではこの計装工事の他にも、通常の電気工事も手掛けています。

「そういつたお仕事があるとは、知りませんでした。倉永社長は、何故この業界に入られたのですか。」

私はもともと、アルバイトや派遣社員として、電気工事の仕事をしていました。その後、一人親方のもとで仕事をするようになったのです。そうして20代後半になったころに本腰を入れて仕事をしようと考えたように。当時、私は結婚して子どももおり、周囲からも「何かあった時に困るから、ちゃんと福利厚生がある勤め人になったほうが良いよ」と言われていました。それもあった、第二種電気工事士の資格も取得して、就職活動を開始。しかし、当時は就職氷河期でなかなか仕事が見つからず、最終的に独立という道を選ぶことになりました。そのタイミングで第一種電気工事士の試験を受けることにしたのですが、試験には合格してもらった上で当社に入ってもらったのです。

「確かに、最近は大きな現場に入るのに色々と厳しくなっていると聞きます。」

ええ。現場に入る一週間ほど前には、ゼネコンさんに安全書類を提出しなければなりません。健康診断を受けているか、通勤車両はちゃんと保険に入っているかなどを厳しくチェックされます。少しでも事故が起きると大変なことになってしまいますから、当然のことだと思います。こうした時代の変化に、私たちは対応していかなければなりません。私自身、昔は税金などについても理解しておらず、大変な思いをしたこともあります。でも、それらは結果として、自分たちや家族を守ることにつながるのです。建設業界には、怖い、ならず者、のようなイメージが少なからずあると思います。私たちに必要なのは、社会の一員としてしっかりと責務を果たし、皆様に認めてもらうこと。そのためには、コンプライアンスをしっかり守り、怪我や事故なく、決められた期日までに現場を納めていかなければなりません。それらを積み重ねていくことで、お客様からの信頼にもつながっていくと思います。

「社長のような方々であれば、皆様も信頼できることでしょうか。最後に、今後について伺います。」

仲間を増やして、電気工事部門と計装工事部門を作りたいです。その中で、人材育成に努めて、現場全体を見ることができ、番頭さんを増やしたいですね。また、さらに広い倉庫と事務所に移りたいです。そして、より多くの現場を手掛けられる体制を整えていきたいと考えています。

代表取締役

倉永 武

東京都練馬区出身。学生時代はバンド活動に打ち込み、卒業後も音楽活動を続けたり、バイクで日本一周旅行をしたりと、活発な性格。その後電気工事業界に入ると、腕を磨いて第一種電気工事士の資格を取得し、独立を果たす。



「早速ですが、御社が手掛けておられます計装工事というのは、どのような工事なのでしょう。」

私ももともと、アルバイトや派遣社員として、電気工事の仕事をしていました。その後、一人親方のもとで仕事をするようになったのです。そうして20代後半になったころに本腰を入れて仕事をしようと考えたように。当時、私は結婚して子どももおり、周囲からも「何かあった時に困るから、ちゃんと福利厚生がある勤め人になったほうが良いよ」と言われていました。それもあった、第二種電気工事士の資格も取得して、就職活動を開始。しかし、当時は就職氷河期でなかなか仕事が見つからず、最終的に独立という道を選ぶことになりました。そのタイミングで第一種電気工事士の試験を受けることにしたのですが、試験には合格してもらった上で当社に入ってもらったのです。

「良い人材に恵まれて、心強いですね。現在従業員の方々は何名ほどいらっしゃいますか。」

5名です。当社は昨年8月に法人化を果したのですが、従業員は皆、それ以前から個人事業主として共に働いてくれたメンバーばかりです。法人化に際して、「これからの時代は、ちゃんと保障がある会社で働いたほうが良い」と説得して、当社に来てもらいました。手取りとしては下がってしまったのですが、家族がいるメンバーもおりましたから、万が一何かあった時に、結果として家族を守ることにもつながります。それに、昨今は建設業界に対する法律も厳しくなっていますから、長い目で見た時に個人事業主のままだと入れる現場がどんどん減ってしまう。それらを伝えて、理

しても、実際に資格証をもらうには、電気工事の登録業者のもとで5年間の実務経験が必要でした。そこで、5年間下請けのような立場で、ある会社にお世話になった後、独立を果たした次第です。

「努力を重ねて、独立を果たされたわけですね。実際に独立されてみて、いかがでしたか。」

リーマンショックや東日本大震災などに見舞われて、厳しい状況下に置かれたこともありました。また、東京オリンピックに際しては、オリンピック期間中は都内の工事が完全にストップしていたのです。当社は基本的に都内での仕事がメインでしたから、正直厳しかったですね。そんな中で、従業員が奔走して、自分の仲間の伝手を頼って仕事を紹介してくれたのです。従業員の頑張りがあったからこそ、今の仕事ですから、彼には感謝ばかりです。

「良い人材に恵まれて、心強いですね。現在従業員の方々は何名ほどいらっしゃいますか。」

5名です。当社は昨年8月に法人化を果したのですが、従業員は皆、それ以前から個人事業主として共に働いてくれたメンバーばかりです。法人化に際して、「これからの時代は、ちゃんと保障がある会社で働いたほうが良い」と説得して、当社に来てもらいました。手取りとしては下がってしまったのですが、家族がいるメンバーもおりましたから、万が一何かあった時に、結果として家族を守ることにもつながります。それに、昨今は建設業界に対する法律も厳しくなっていますから、長い目で見た時に個人事業主のままだと入れる現場がどんどん減ってしまう。それらを伝えて、理



松尾 伴内

仲間たちと共に、日々工事に尽力しておられる倉永社長。着実に成長しておられる様子ですが、決して驕らずに、何度も「従業員の頑張りや周囲の方々とのご縁のお陰です」とおっしゃっておられました。そんな社長のお人柄があるからこそ、皆様も社長の力になりたいと思えるのではないのでしょうか。これからそんな社長のままでいて下さいね。陰ながらではありますが、応援しています！

ゲストインタビュアー



VIEW POINT

従業員との信頼関係が確かな工事を生み出す

- ▼対談中、「Zeal E.C.」を支える5名の従業員たちに何度も感謝を述べていた倉永社長。一人ひとりが責任感を持って仕事に打ち込んでくれていることが、社長自身のやり甲斐にもつながっているという。
- ▼実際、従業員の方々は皆優秀で、5名中4名は電気工事士の資格に合格。1名は惜しくも落ちてしまったが、次の試験でリベンジのため勉強に励んでいるという。
- ▼その背景には、人材教育に力を注ぐ社長の努力があった。社内で勉強会を行ったり、休みの日には講習会を開

いたりして、従業員の技術向上をサポート。その成果は確かに現れていると思うが、社長は「一番頑張ったのは従業員です」と笑う。

▼そんな社長も、現場では厳しい言葉を投げることもあるそうだ。ただ、一方的に言うだけではなく、休憩時間などを利用して従業員とのコミュニケーションを図り、互いの思いを伝え合うようにしているという。そんな社長の、驕らず従業員と向き合う姿勢があるからこそ、信頼が生まれ、確かな工事につながるのだ。